

インド豪雨で調整員派遣

AMDA 被災地ニーズ把握

出発前にAMDAのスタッフと話す岩尾さん(左) 〓 JR岡山駅



雨期の豪雨により大きな被害が出ているインド南部・ケララ州の被災者支援のため、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市北区伊福町)は25日、調整員の岩尾智子さん(34)〓同市〓を派遣した。現地の関係者と被災地のニーズを把握し、その後の支援につなげる。

岩尾さんは同日午前、関西空港に向けてJR岡山駅を出発。首都ニューデリーを経由してケララ州に入る。現地のロータリークラブやAMDAのインド支部と合流して、医療支援や生活物資の供給などその後の活動内容を協議する。2週

間の滞在予定だが、状況に応じて延長する。

岩尾さんは岡山駅で「ケララ州のほとんどが水に漬かり、100年に一度の災害と言われている。まずは

現地で状況を把握して何ができるかを考えたい」と話した。

AMDAによると、8月5日から2週間続いた豪雨でケララ州では大規模な洪水が発生。20日時点で324人が死亡し、約22万3千人が避難所で生活している。(南原久人)